

一般社団法人日本小児看護学会 2017年度 第1回定時社員総会（評議員会）議事録

日時：2017年6月11日(日) 13:00～15:20

場所：文京学院大学保健医療技術学部看護学科 本郷キャンパスS館704

理事：武田淳子、日沼千尋、浅野みどり、飯村直子、江本リナ、中野綾美、中村由美子、奈良間美保、二宮啓子、平林優子、遠藤芳子、佐藤幸子

監事：草場ヒフミ、中村慶子

選挙管理委員長：小川純子

評議員出席者：市江和子、市原真穂、内正子、岡田洋子、長田暁子、勝田仁美、上別府圭子、児玉千代子、杉浦太一、関根弘子、添田啓子、高野政子、高橋泉、田村恵美、友田尋子、榎木野裕美、仁尾かおり、萩原綾子、濱田裕子、平田美佳、法橋尚宏、益守かづき、三宅一代、薬師神裕子、渡邊輝子（五十音順）

出席社員数：48名（会場39名、委任状9名）

欠席社員数：2名

【開会】

出席者数の確認

司会の日沼副理事長より、13:00に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数50名（2017年6月11日現在）のうち、会場出席者39名（うち1名は、交通事情により遅れて出席）、委任状による出席9名、欠席2名であり、定款第27条2項により、評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。

理事長挨拶

昨年、評議員選挙が行なわれ、本日の社員総会終了後から新体制となる。昨年の選挙は、法人化後なおかつ選挙管理委員会が常設化して初めての選挙であり、そのことを含めて、後ほど報告したい。

昨年度は、「4月から事務局の変更」「オンライン投稿・査読システム導入の準備」「SNSの廃止とメールマガジン配信の準備」などいろいろなことを行なった。学会として活発な活動を継続しつつ、かつ効率化を図るため、委託業務内容の整理を行ない、多少スリム化されたと考えている。

他学会等との関連としては、国際学会の日本での開催に対する後援依頼や医学系の国際学会における委員の推薦依頼、日本看護協会からの研修会プログラム検討委員の推薦依頼など、学術団体としての本学会への新たな依頼があった。また、ある企業からは、学会の成果物である「子どもの事故防止ノート」を使って、これから母親になる方に情報提供したいとの申し出もあった。これらはいずれも、本学会が広く社会に周知されてきた結果であり、社会的ニーズも高まってきていると感じている。社会的ニーズの高まりや活発な学会活動が維持できていることは、評議員や会員の方々の多く

の支援があつての賜物であり、大変感謝している。

今期の理事会は本日の社員総会をもって終了となるので、今期の活動の2年間分についてご意見を頂戴し、確実に新体制にバトンタッチしていきたい。

議事録署名人の承認

定款第29条により、社員総会の議事録署名人として、内正子評議員、渡邊輝子評議員が推薦され、承認された。

【報告事項】

1. 一般社団法人日本小児看護学会 2016年度理事会報告 (p.1)

社員総会資料に基づき、武田理事長より報告された。

1) 第1回理事会報告 (2016年5月22日)

①2015年度収支決算・監査結果、②2016年予算案、③第28回学術集会会長候補者、2016年度選挙管理委員会委員長及び委員候補について審議され、承認された。

2) 第1回書面理事会報告 (2016年6月6日～6月8日)

定款施行細則第7条2項、第9条2項、第11条1項の改正について審議され、承認された。選挙管理委員会が常設化されたことによって、施行細則が一部改正となつた。資料p.26～27 定款施行細則において一部訂正が必要な部分があり、訂正版をホームページに掲載するのでご確認いただきたい。

3) 第2回理事会報告 (2016年7月22日)

①第28回学術集会の会期、場所について、②学会業務委託において大学生協学会支援センターを含む3社で検討すること、について報告された。

4) 第3回理事会報告 (2016年10月9日)

大学生協学会支援センターが2016年度で業務を終了するため、新たに1社を加えた3社による入札を実施

することが承認された。

5) 第4回理事会報告（2016年12月18日）(p.2)

2017年度以降の学会業務について、入札結果を踏まえて（株）毎日学術フォーラムに委託することが承認された。2016年度中間決算について説明され、各委員会予算総額の5%程度を人件費として計上してもよいことが承認された。

6) 第5回理事会報告（2017年3月20日）

2017年度予算案、各委員会の2016年度事業報告、2017年度事業計画案について承認された。

また、第29回の学術集会会長の推薦、2017年度社員総会の準備について検討された。①名誉会員候補者については「該当者なし」とすること、②入会手続きにおける仮入会廃止とWEBでの入会申請導入に伴う入会手続きの変更点、③会計に関する規定の改正案、④中間決算をなくすこと、が承認された。新事務局との業務委託契約書ならびに学会誌販売業務委託に関する契約書について説明された。新理事体制、新事務局への変更に伴う登記手続きの委託先とスケジュールについて報告された。

書面理事会を除く各回の理事会において、新規入会申込者および退会者の審査・承認が行なわれた。

2. 2016年度定時社員総会報告（2016年6月12日）

(p.3)

文京学院大学保健医療技術学部看護学科 本郷キャンパスで行なわれた。会場出席者41名、委任状9名、計50名であった。報告事項、審議事項については、資料をご確認いただきたい。

評議員にとっての利便性ならびに経費のことを考え、法人化移行は東京での開催としており、高い出席率を維持することができている。

3. 事務局報告 (p.4)

2017年3月31日現在、会員数は2,264名、正会員2,252名（仮入会104名を含む）、名誉会員8名、賛助会員4名である。会員異動状況は、2016年度入会者281名、退会者181名で、100名の増加となった。地区別・都道府県別の会員数の内訳が報告された。

4. 事業報告

1) 学術集会報告 (p.5)

2016年7月23日、24日、別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザにて、大分県立看護科学大学 高野政子氏を会長に、メインテーマ「つなぎ 活かす 小児看護の現在と未来—Linkage, Coordination and Development—」として開催された。参加人数は1,373名であった。

2) 総務委員会報告 (p.5)

資料に基づき、①社員総会、会員集会、理事会の運営、②総務委員会の開催、③学会の運営、④法人化後の体制整備、について報告された。

3) 編集委員会報告 (p.5)

以下について、資料に基づき報告された。

①学会誌の編集・発行、オンライン公開

第25巻2号、第25巻3号を各2,150部発行した。2016年度8月第3週金曜日発着分をもって紙媒体による新規投稿受付を中止している。J-STAGEでのオンライン公開および年1回の冊子発行へ変更した。J-STAGEには、第26巻3月分として14編が公開されている。

②学会誌の発行・販売についての対応と検討

学会誌の発行部数に不足があったため、第24巻2号、第24巻3号、第25巻1号を増刷した。発行回数の変更に伴い、会員への送付に関する取り決めを見直した。定期購読機関には、変更に関する周知を行なった。2017年度より定期購読機関以外への学会誌販売中止を決定した。

③オンライン投稿・査読システム導入と移行対応

『Editorial Manager』（以下EM）の導入を決定し、会員への周知を行ない2017年5月31日に開始となっている。EMの本学会誌専用サイトを構築し、マニュアルを作成した。

④編集業務一部委託

編集業務の一部委託のため、一般社団法人国際医学情報センターと契約を締結した。

⑤オンライン投稿・査読システム導入に伴う投稿規程/ガイドラインなどの見直し

⑥学会誌のオンライン公開システム移行および電子ジャーナル化

CiNiiにて公開済みのバックナンバーをJ-STAGEへ移行・公開を行なった。また、前身誌『日本小児看護研究学会誌』を電子化し、J-STAGE登録手続きを行なった。第26巻から電子ジャーナル化し、閲覧制限なしのオープンアクセスジャーナルとなっている。

⑦機関リポジトリポリシーの検討と対応

学協会著作権ポリシーデータベースの登録内容を見直した。

⑧学会誌掲載論文転載許諾審議

大学リポジトリ3件への転載許諾を承認した。

4) 広報委員会報告 (p.6)

以下について、資料に基づき報告された。

①ニュースレターの編集・発行

第49号、第50号を発行した。

②学会ホームページの管理・更新

学会ホームページでは、学会組織・委員会活動、入会手続き等の基本情報を継続的に掲載するとともに、熊本・大分地震関連情報、評議員選挙告示、オンライン投稿・査読システムおよび学会誌電子ジャーナル化に関

する情報等を掲載・更新した。

③会員専用 SNS の停止及び会員向けメールマガジン配信の準備

④学会紹介用リーフレットの活用

学会紹介用リーフレットを用いて、広報活動に努めた。

5) 学術・研究推進委員会報告 (p. 7)

以下について、資料に基づき報告された。

①研究奨励賞事業

第8回(2016年度)日本小児看護学会研究奨励賞論文の選考を行ない、選考の結果、理事会の承認を得て、以下の1編が受賞論文に決定した。西田千夏(2015) : 発達支援を受けている子どもの親が子どもを洞察するプロセス—親の内省機能が及ぼす影響の検討—, 日本小児看護学会誌 24(2), 10-17.

②研究助成事業

第6回(2016年度)研究助成2件に対して、サポートを行なった。2016年度末には研究報告書、出納帳が提出され、委員会にて監査を行なった。第7回(2017年度)研究助成の公募を行なったが応募はなかった。

③国際学術会議研究発表助成事業

第1回(2016年度)川出富貴子国際発表助成として、三宅香織氏(愛知県立大学大学院)に助成を行なった。

④日本小児看護学会学術集会運営支援事業

日本小児看護学会第26回学術集会運営の支援を行なった。

⑤教育委員会と学術研究推進委員会とのコラボ研修会
2016年12月3日に首都大学東京にて研修会を実施した。テーマは、「小児看護の実践能力を高める教育—どんな場であっても小児看護ができる人を育てよう。その教育どうすればよいかー」であった。

6) 教育委員会報告 (p. 7)

以下について、資料に基づき報告された。

①地方会開催

2017年2月18日に北海道地区(札幌)で開催した。札幌市立大学看護学部 松浦和代氏を代表者として運営され、77名の参加者で行われた。2017年度地方会代表者は、四国地区、四国大学看護学部 小川佳代氏とし、2018年3月10日に開催予定である。

②エキスパートパネルの開催・企画

第26回学術集会で2題のエキスパートパネルを開催した。テーマは、「子どもの苦痛緩和について考えよう」「在宅で使えるツールを共有しよう」であった。

③医療的ケア研修セミナーの共催企画

2016年11月27日に長崎で行なわれた日本小児神経学会の第13回医療的ケア研修セミナーを共催した。

④研修会の開催

2016年12月3日に「小児看護をする人を育てよう」をテーマに開催し、参加者97名で講義・グループワー

クを実施した。

⑤「医療機関ではじめて小児看護に携わる人の教育へのヒント」の作成

研修会参加者の許可を得て、研修会で討議された内容を踏まえて作成中である。

7) 倫理委員会報告 (p. 8)

以下について、資料に基づき報告された。

①小児看護実践における倫理的課題・小児看護における研究倫理についての啓発活動

日本小児看護学会第26回学術集会でテーマセッション「子どもの緩和ケアについて考えてみませんか?—がん・非がん疾患を超えて—」を企画・開催した。参加者は約105名であった。また、子どもを対象とする看護研究の倫理を紹介し、啓発活動を行なった。

②「エンド・オブ・ライフケア指針 子どもと家族がよりよく生きることを支えるために(案)」の作成

指針(案)の検討、指針(案)の作成に向けた調査を実施した。今後、結果を配信していきたいと考えている。

③「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針」の啓発活動

倫理指針の作成に当たり実施した調査結果を第27回学術集会および日本小児看護学会誌に委員会報告として掲載できるようにまとめを行なった。

④日本小児看護学会第27回学術集会での倫理委員会企画に向けて

昨年度に引き続き、今回は発展させた形でテーマセッションを企画し、準備を行なった。また、倫理委員会の活動、指針の紹介などについての啓発活動の準備を行なった。

8) 小児看護政策委員会報告 (p. 9)

以下について、資料に基づき報告された。

①小児看護の重要課題に対する政策提言

・日本看護協会会长宛に、小児救急看護認定看護師会からの「小児救急看護認定看護師養成課程休講に関する意見書」とともに、日本救急医学会と日本小児看護学会の2学会連名で「小児救急看護認定看護師養成課程休講に関する要望書」を提出した。

・「看護学教育のモデル・コア・カリキュラム策定に関する意見書」を文部科学省、日本看護系大学協議会に提出した。6~7月にパブリックコメントが出て、確定となる予定である。

②小児救急看護認定看護師の養成に関する検討

小児救急看護認定看護師の養成継続に向けて、小児救急看護認定看護師会と連携し、支援した。

③健やか親子21(第2次)推進協議会での参加団体としての活動

テーマ2「育児支援等」のグループミーティングに参加した。テーマ4「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等」では、厚生科研「思春期の

母性保健の向上のための効果的な保健指導のあり方についての調査研究」に参加した。また、2016年度健やか親子21推進協議会総会に参加した。

④健やか親子21(第2次)の活動と学会員への周知
子育て支援への啓発活動として、第26回学術集会のテーマセッション「看護師が身近にできる子育て支援ー出会った時が支援のチャンスー」を開催した。第27回学術集会においても継続してテーマセッションを開催する予定である。テーマ2「育児支援等」推進活動として、啓発ポスターの作成、配布、学会ホームページへの掲載をした。健やか親子21(第2次)の動向と委員会活動について学会ホームページの内容を更新した。

⑤「特定行為に係る看護師の指定研修制度」を注視

2015年10月1日に研修制度が開始され、2017年2月には指定研修機関が39施設になったことを学会ホームページに掲載した。

⑥「成育基本法」成立過程を注視

新たな動きはなかった。

⑦医療事故調査等支援団体としての活動

支援団体として登録をしたつもりであったができておらず、相談や専門家の派遣等の依頼はなかった。再度登録をした。小児に関連した医療事故としては、「うつぶせ寝で死亡した」ということがあり、今後は本学会に依頼があると考える。

9) 診療報酬検討委員会報告 (p. 10)

以下について、資料に基づき報告された。

①平成28年度 診療報酬改定 分析、評価

平成28年度改定について精査分析し、次の平成30年度の改定に向けた課題の抽出を行なった。

②平成30年度 診療報酬改定に向けての要望書作成

「1. 要支援児童対応体制加算(新設)」「2. 小児において、退院支援加算1の施設基準に含まれる【介護支援連携指導料の算定実績】の削除」「3. 小児がん患者指導管理料の算定基準の見直し」「4. 専門性の高い看護師による小児慢性特定疾病患児童等への自立支援に関する評価(新設)」「5. 小児在宅ケアコーディネーターのケア計画立案評価」の5つの要望書を提出した。「虐待」という言葉が診療報酬において適切ではないため、さまざまな関連機関との調整の上、「要支援児童」とした。

③診療報酬に関する学会員への啓発活動

日本小児看護学会第26回学術集会では、テーマセッションを主催した。第27回学術集会に向けて、「入院した子どもに関する診療報酬」についてテーマセッションを企画準備した。

10) 国際交流委員会報告 (p. 10)

以下について、資料に基づき報告された。

①国際学会の紹介

2016年度に開催される国際学会の紹介を行なった。

②学術集会での国際交流セミナー開催

国際学会へのエントリー方法、抄録の書き方、発表の仕方、英語翻訳の依頼方法など初步的な講習会を行った。

③The Asia Pacific Paediatric Nursing Association (APPNA)への参加と活動

APPNA 第2回学術集会が2016年8月に上海で開催された。2017年はタイ(バンコク)で開催される予定である。

④国際学会 ICPにおけるツアーの企画

2016年8月17~22日カナダバンクーバーで開催される学会に合わせて、小児関連病院、施設などの見学を企画し、4名の参加があった。

11) 災害対策委員会報告 (p. 10)

以下について、資料に基づき報告された。

①各地区の災害ネットワーク作り: シミュレーションの実施によるネットワークの充実

2016年7月5日に実施し、メール配信数の88.6%より返信があり、24時間以内の返信が96%を占めた。

②熊本・大分地震災害への支援活動

支援ニーズの確認、対応の検討、災害対策委員による相談体制構築、災害関連情報を掲載した学会ホームページ一覧の作成をメール審議にて行なった。また、学会ホームページにお見舞い文を掲載した。

③教育推進活動: 災害に関する啓発のための研修会

災害に関する意識向上のために、2017年3月5日に四国地区にて研修会を実施し、参加者は60名であった。

④第26回学術集会における特別企画

東日本大震災における活動について講演を行ない、子ども自身や家族自身の力を支えるという視点から全体討議を行なった。

⑤子どもに関する災害資料の収集を追加充実させてホームページ上で情報提供する

⑥災害支援に関する情報や委員会活動についての広報

⑦災害支援金助成の活用推進

災害支援助成金は、東日本大震災に限定していたため、残念ながら熊本・大分地震災害へ活用することができなかった。委員として努力したが、今年度の応募は0件であり、今後検討が必要である。

⑧関連団体との連携

日本小児医療保健協議会へのオブザーバーとして陪席参加した。

12) 選挙管理委員会報告 (p. 12)

今年度から常設委員会となった。資料に基づき、①評議員選挙、役員選挙の準備、②評議員選挙、役員選挙の実施、について報告された。

質疑応答

・平成30年度 診療報酬改定に向けての要望書において、NPも加算対象としてご検討いただきたい。また、

小児在宅の訪問看護に関する診療報酬の加算について
もご検討いただきたい。

- 職種特定というよりは、算定ができる人が幅広くなるようにと考えており、高度専門的学習をした者が、算定できるような文面になっている。
- 訪問看護現場との調整が難しい状況にある。訪問看護師団体など関連団体と協力し、今後検討していく。

【審議事項】

1. 定款の改正 (p. 23)

定款第1章第2条の改正について、事務局の変更に伴い、本法人の事務所を東京都千代田区に置くことが報告された。審議を経て、定款の改正についてすべての評議員の3分の2以上の賛成が認められ、可決された。

2. 選挙報告 (p. 13, 41)

資料に基づいて、小川選挙管理委員長より報告された。総数54名の評議員定数で選挙を行い、開票は2016年12月25日に大学生協会館会議室にて行われた。また2017年2月19日に理事・監事選挙の開票を行い、結果については、p. 41の評議員・監事(2017年度総会～2021年度総会)、理事(2017年度総会～2019年度総会)により確認を行った。審議を経て、本案件に関して過半数の賛成が認められ、可決された。継続理事となる浅野理事、江本理事、中野理事、奈良間理事より、就任の承諾が得られた。

3. 新理事長・副理事長の承認

新理事・監事が別室に移動して理事会が開催され、協議の結果、新理事長、新副理事長、指名理事が推薦された。

新理事長に奈良間美保氏、新副理事長に浅野みどり氏が推薦され、全員の挙手により可決し、承認された。

4. 指名理事の承認

指名理事として、堀田法子氏、堀妙子氏が推薦され、全員の挙手により承認された。

5. 2016年度決算

資料に基づいて佐藤理事より報告された。

1) 収入の部 (p. 14)

2016年度の会費収入合計は17,056,000円であり、収入合計は93,181,077円となっている。

2) 支出の部 (p. 14)

2016年度の支出合計は35,671,817円、収支差額は6,266,993円となった。

3) 2016年度貸借対照表 (p. 16)

年度末現在でのすべての資産と負債についての状態

を詳細に示している。

4) 財産目録 (p. 17)

年度末現在でのすべての資産と負債についての名称などを詳細に示している。正味財産は、63,375,007円となっている。

6. 会計監査 (p. 18)

草場監事、中村監事にて、2017年4月30日会計担当と税理士同席のもと、東京の税理士事務所にて2016年度の会計監査を行い、特に問題ないことが報告された。

審議を経て、2016年度決算、会計監査について過半数の賛成が認められ、可決された。

7. 2017年度事業計画案

資料に基づき各委員長より報告された。

社員総会：1回6月、会員集会：1回8月、理事会：6回開催予定

1) 第27回学術集会 (p. 19)

2017年8月19日(土)、20日(日)開催予定。

2) 学会誌発行・編集 (p. 19)

① 26巻、27巻の編集・J-STAGEでの公開を予定している。

② 学会誌第26巻の冊子発行を行う

③ Editorial Managerによるオンライン投稿・査読システムの運用を行う。

④ 「日本小児看護研究学会誌」のNII-ELSからJ-STAGEへの移行を行なう。

⑤ 学会誌掲載論文転載許諾審議を行う。

⑥ J-STAGE公開論文のメディカルオンラインにおける電子配信を行う。

3) 広報 (p. 19)

①ニュースレターの編集・発行

第51号を2017年12月に発行予定である。

② ホームページの管理・更新

ホームページの内容を随時更新し、英語版ホームページの更新も行う。

③ 会員へのメールマガジン配信

学会ホームページの更新内容を中心に、会員向けにメールマガジンの配信を行う。

④ 学会紹介用リーフレットの活用

リーフレットに必要な修正を加えてホームページにする。

4) 学術・研究推進 (p. 19)

① 研究奨励賞事業

第9回(2017年度)「日本小児看護学会研究奨励賞」対象論文の選考を行う。

② 研究助成事業

第8回(2018年度)研究助成を公募し、応募の中か

ら2件まで選考する。

③小児看護学会学術集会運営支援事業

日本小児看護学会第27回学術集会において、企画、準備、運営の補助を行う。また、第28回の企画、準備の補助を行なう。

④国際学会議発表助成事業

第2回（2017年度）川出富貴子国際発表助成について公募を行い、応募の中から3件程度選考する。

5) 小児看護に関する教育 (p. 19)

①研修会の開催

②医療機関ではじめて小児看護に携わる人への教育のヒント作成

③地方会支援

2018年3月10日（土）13:00～16:00 四国大学古川キャンパスにて地方会が開催される。

④医療的ケア研修セミナー（日本小児神経学会との共催）

2017年11月12日（日）東京大学校内医学部鉄門記念講堂にて開催される。

6) 小児看護に関する倫理検討 (p. 20)

①小児看護実践における倫理的課題に関する活動

・子どもの緩和ケアにおける倫理的課題の検討：日本小児看護学会第27回学術集会でのテーマセッションの開催、パネル展示を行う。

・「エンド・オブ・ライフケア指針—子どもと家族がより良く生きることを支えるために—」の作成と啓発活動を行う。

②子どもの権利を脅かす倫理的課題に関する活動を行う。

③小児看護における倫理教育に関する活動を行う。

④子どもを対象とする看護研究の倫理に関する活動を行う。

「子どもを対象とする看護研究に関する倫理の啓発活動：第27回学術集会でのポスター発表及び日本小児看護学会誌への委員会報告」

⑤臓器移植関連学会協議会の加入学会としての活動を行う。

7) 小児看護政策に関する検討 (p. 20)

①小児看護の重要課題に対する政策提言

②小児救急看護認定看護師の養成に関する検討の継続

③健やか親子21（第2次）推進協議会等での参加団体としての活動を行う

④健やか親子21（第2次）の活動と学会員への周知

・看護師が身近にできる子育て支援への啓発活動として、テーマセッションの開催を行なう。

・健やか親子21の動向と委員会活動についての学会ホームページの更新を行なう。

⑤「特定行為に係る看護師の指定研修制度」を注視する。

⑥「成育基本法」成立過程を注視する。

⑦医療事故調査等支援団体としての活動をする。

8) 小児看護関連診療報酬検討 (p. 20)

①平成30年度診療報酬改定に向けて要望書に関する活動

②学会員への診療報酬に関する情報提供、啓発活動
③看保連、関連団体との連携を行う。

9) 国際交流 (p. 20)

①国際学会の紹介

②国際学会

・世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science 2017年10月20日～22日：タイ）理事会に発起人学会として出席予定である。

・第3回APPNAの学術集会（2017年11月20日・21日：タイ）への参加と学術集会における国際交流委員会活動を行う。

③APPNAにおける活動

10) 災害対策 (p. 20) 資料あり

①各地区の災害ネットワークづくり

シミュレーションの実施によるネットワークの充実を図る。

②教育推進活動

災害に関する啓発のための研修会を開催する。2017年9月9日 札幌医科大学基礎医学研究棟5F会議室にて、テーマ「積雪寒冷地で起こる災害への備え」の研修会を行う。

③災害支援に関する情報や委員会活動についての広報

・テーマセッション「災害時の小児看護を身近な視点で考える」

・学会ホームページの災害関連情報の整理

④災害支援金助成の活用推進

⑤関連団体との連携：日本小児医療保健協議会の小児・周産期災害医療対策委員会へのオブザーバー参加

11) 選挙 (p. 21)

①常設委員会としての役割の整理、定款施行細則と申し合わせ事項の確認・修正を行う。

②新事務局との役割分担を確認し、次期理事選挙に向けて準備を行う。

以上、2017年度事業計画案について過半数の賛成が認められ、可決された。

8. 2017年度予算案

佐藤理事より、資料(p. 22)に沿って提案された。2016年度の収支決算の実績をもとに予算案を立てた。

1) 収入の部

①会費

19,240,000円を計上した。

②雑収入

660,000 円を計上した。

③学術集会収入

④研修会参加費

以上、当期収入合計は 42,184,000 円を見込んでいる。

2) 支出の部

①会員集会費

②会議費（社員総会）

理事会 6 回分がある。

③事業費

・【学術・研究推進】

国際学術会議研究発表助成 300,000 円を計上している。

④事務費

・庶務費

・会計経費

・事務業務委託

・移転費

・租税公課

・雑費

⑤予備費

以上、当期支出合計は 43,272,522 円である。

以上、2017 年度予算について審議を経て、過半数の賛成が認められ、可決された。

9. 2019 年度 第 29 回学術集会会長の承認

第 29 回学術集会会長として、札幌市立大学看護学部の松浦和代氏が推薦された。

過半数の賛成が認められ、可決された。

【2018 年度 第 28 回学術集会会長挨拶】

第 28 回学術集会会長の奈良間美保氏より挨拶がなされた。

特別講演では内田樹先生により “「修行と葛藤」生きる知恵と力を高めるために” というテーマで講演が行われる予定である。シンポジウムでは、“子どもと家族とともににある医療を考える(仮)” というテーマを企画している。名古屋市の紹介もあり、皆様のご支援、ご協力をお願いしたい旨の挨拶がなされた。

会長：奈良間美保

(名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻)

日時：2018 年 7 月 21 日（土）、22 日（日）

会場：名古屋国際会議場

テーマ：子ども、家族とともににある看護

【閉会】

これを以て、すべての議題を終了し、15:20 一般社団法人日本小児看護学会 2017 年度の社員総会を閉会した。

配布資料一覧

・一般社団法人日本小児看護学会 2017 年度社員総会資料

・一般社団法人日本小児看護学会 災害対策委員会主催 災害看護研修会チラシ

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により
以上の議事を認め署名押印する。

2017年 7月 15日

議長

武田 浩子



議事録署名人

内 正子



議事録署名人

渡邊 輝子

